

障がいのある方の作品で世界とつながる

「UMU（う～む）」

楠田 裕輝（熊本障がい者サポーター、株式会社 調べ考房）

はじめまして！アート系クラフトの小さなお店「UMU（う～む）」です。熊本市南坪井町の上乃裏通り沿いに、わずか 10 畳ほどの雑貨を中心としたセレクトショップを開いています。

店内には熊本をはじめ日本各地、さらには海外の雑貨や絵画、そして焼き菓子などをディスプレイしています。実は、並んでいる商品のほとんどは障がいのある人たちの手による作品たちです。

お店の名前「UMU（う～む）」は、障がいの“有無”に関わりなく、理屈抜きにわくわくするものとの出会いを“生む”場になればとの願いを込めています。

～3つのショップコンセプト～

「UMU（う～む）」のコンセプトはこんな感じです。

①理屈ぬきのこれまでにない世界観をお伝えします。

“かわいい”“おもしろい”“思わず伝えたくなる”……。こんな感想が聞こえてきそうな障がいのある作家さんの作品を展示・販売します。

②もともと持っていた素直な心の鍵を開きます。

絵画、切り絵、竹製品、木工品、布製品、文房具、缶バッジ、テキスタイル……。こんな商品を見て、もともと持っていた素直な心の鍵が開いていく人たちがたくさんいます。

③ほっこりする話で作り手と使う人をつなげます。

すべてのアイテムにストーリーが隠されています。どんな人が作っているのか、どのようにして出来上がったのか。ほっこりする話をお伝えすることで作り手とお客様をつなげます。

～スピードと効率の世界から、ほっこりする店づくりへ～

「UMU（う～む）」は、平成 25 年 7 月、熊本市から事業を受託したことをきっかけに障がい者製品のアンテナショップとして開店（受託期間は同年 12 月末まで）。数年前には、メーカーさんなどの商品企画や評価のためのリサーチにも従事していました。そこではスピードと効率、データに基づいた冷徹な論理がものを言う世界でした。こういった環境の中で世の中の少し先を行く喜びもありましたが、一方で、「ほっとしたい」「自分たちで商品を売ってみたい」などの思いが蓄積していく日々だったと思います。

そういった中で、“理屈抜きに何かを訴えてくる”障がい者製品との出会いがあり、これまで蓄積していた思いを実現する店づくりに取り組むことになりました。

＜海外とのつながりその1＞

～オープン 1 年半で延べ 50 人くらいの外国のお客様が来店～

オープンして早 1 年半以上が過ぎました。障がいのある方とご家族、事業所の方々、上乃裏通りを通る方々など、いろんな方がお見えになりました。そんな中でまったく想定外だった方々がおられました。それは外国の方々。国籍は韓国、台湾、香港、マカオ、オーストラリア、イギリス、アメリカ、ドイツ等々。延べ 50 人くらいになるかと思います。「熊本名物からし蓮根箸置き」「ひらがながデザインされたペンケース」「納豆ポーチ」「折り紙」「木製スプーン」「髪ゴム」などを購入されています。

そこから見えてくるのは、外国のお客様も熊本のお客様と同様に、「何かをしたい」「何かをつくりたい」という素直な感情がいっぱい詰まった商品を手にし、心が動いた！という普遍性です。話す言葉は違っても商品や作品を通して外国の方々ともつながることができることを経験させていただきました。

＜海外とのつながりその2＞

～海外でのくまもとの障がい者製品の PR に協力～

UMU で取り扱う商品に対する反応は万国共通です。その思いは、これらの作品や商品を海外で紹介することで、より確かなものになっていきました。例えば、熊本市が取り組む海外でのシティプロモーションの機会に、UMU も障がい者の製品を通して積極的に協力しています。海外展開においては、私たちが扱う商品を PR し、理念やクオリティの高さを伝える機会とするだけでなく、同時に当事者・関係者の制作・販売・支援に対する意欲の向上も狙っています。

▼フランス・エクサンプロヴァンス市でのクリスマス・マーケットでの販売・PR（平成 25 年より毎年 12 月に実施）

▼アメリカ・サンアントニオ市でのジャパンフェスタでの販売・PR（平成 27 年 10 月）

▼アメリカ・アトランタ市でのジャパンフェスタでの販売・PR（平成 27 年 8 月）

▼その他、海外 VIP への「さき織りネクタイ」の PR ※（平成 27 年 10 月）



※古くなった着物を細かく裂いて手織りした織物でつくられたネクタイ。イギリス・ラグビー市長には赤色の素敵なネクタイが大西熊本市長よりプレゼントされました。

《大西市長(左)イギリス・ラグビー市長(右)》